

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25381136

研究課題名（和文）アジア諸国のニューカマー児童の教育課題と支援ネットワークに関する国際比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study on Education and Support Network of migrant Children in Asian Countries

研究代表者

野津 隆志（NOTSU, TAKASHI）

兵庫県立大学・政策科学研究所・教授

研究者番号：40218334

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、アジア4カ国（日本、タイ、韓国、台湾）で重要な課題となっている移民労働や国際結婚の親を持つニューカマー児童の教育問題を現地調査に基づき分析した。調査の結果、アジア4ヶ国ではニューカマー教育の歴史が浅いため、学校外のNPO/NGOが不可欠の支援活動をしていることが分かった。また、4カ国では共通して人権保障を理念としたニューカマー児童の教育支援が普及していることが分かった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to analyze the educational problems of migrant children in the four Asian countries; Japan, Thailand, Korea and Taiwan. Based on the field work, the research found that the expansion of education for migrant children in the four Asian countries is still limited, NPO / NGOs play an important role for helping activities and human rights security has become a common philosophy in the four countries.

研究分野：比較教育学

キーワード：多文化共生 異文化間教育 アジアのニューカマー児童 日本 タイ 韓国 台湾

1. 研究開始当初の背景

(1) 今世紀に入り、アジア4カ国(日本、タイ、韓国、台湾)では、ニューカマー児童の教育問題が、多文化教育研究分野でも注目された。しかし、比較教育的な研究は国内外でもきわめて少ない。従来の研究は、各国内の個別課題分析や欧米モデルの課題解決の考案に限定されていた。そのため、単一民族型教育システムに就学するニューカマー児童の教育問題の包括的な比較分析が不足していた。

(2) アジア4ヶ国ではニューカマー教育の歴史が浅いため、学校外の多様なアクター(NPO/NGO, ボランティア)が不可欠の支援活動をしている。しかし、学校外のアクターの重要性に着目し、さらに学校、自治体、民間企業、NGOなどの異なるアクター間の連携・協働の有効性という視点からの研究が不足していた。

2. 研究の目的

(1) アジア4カ国のニューカマー児童の教育課題を大きく「教育アクセス」「教育内容」「進路」に分け、課題解決の現状や問題特性を整理し、各国の解決への取り組みの現状を比較分析する。

(2) ニューカマー児童の支援ネットワークの形成要因とその役割分析という視点から、地域での支援アクター相互関係を詳細に分析し、ネットワーク形成を可能とする諸要因を明らかにする。

(3) ニューカマー児童へのネットワーク支援による課題解決の有効性を明らかにし、成功事例を国内外に発信する。

3. 研究の方法

(1) 各国別調査班を編成し、各調査班が拠点調査地の学校、教育委員会、行政機関、NPO・NGOなどに協力依頼し、ニューカマー児童、家族への面接調査、学校、行政機関、NGO調査を実施し、包括的な情報収集を行った。さらに、各国ごとに調査協力者を配置し、調査協力者は長期継続的に学校やNPO・NGOで参与観察を行い、詳細なデータ収集を行った。

(2) 現地調査を行った国は、日本(兵庫、秋田など)、韓国(ソウル、ノンサン市、釜山市)、台湾(台北、台中)、タイ、カンボジア、ラオスである。

4. 研究成果

(1) 韓国・釜山大学社会科学研究院と合同で、3年(H26、H27、H28)に渡り、国際会議を開催した。国際会議では韓国と日本の多文化社会の現状と課題について発表と意見交換を行った。H26は「Migration and Diaspora in Asia-Diversity and Dynamics」、H27は「東

アジアにおける多文化社会の現状と課題：日韓比較」、H28は「Diversity and Equity: Through the Lens of Multiculturalism」をテーマに会議を行った。3カ年を通して、増加する結婚移住者の人権と生活支援、ニューカマー児童への平和学習、日本での高校への特別入学試験枠の必要、日本に住む中国残留邦人帰国者の歴史・現状・課題など多様なテーマで議論し、研究者同士の連携を強化した。

(2) 調査4カ国でのニューカマー児童教育については、特に母語教育、教授言語(国語)など言語教育の現状と課題について明らかにした。4カ国を比較すると次のことが特徴として挙げられる。

内容的には母語指導員、母語補助支援者の派遣、母語クラスの開催など類似の取り組みが多い。

韓国、日本の母語教育は、自治体とNGO、民間団体が主導している。

タイの母語教育はNGOが主導し、民間企業の連携も見られる。しかし、4カ国の中では政府・自治体の関与度が最も低い。

台湾では、学校と新移民学習センター、移民団体、公益団体と協力して、新移民の母語教育を実施している。4カ国の中では最も先進的な母語教育支援制度が構築されつつあり、今後の動向が注目される。

(3) 日本国内での調査(ニューカマー生徒の高校進学と特別入学枠制度)を行い、特別入学枠の制度的現状と各県による違いを明らかにした。この研究結果は、兵庫県での公立高校入試における外国人特別枠の導入と受け入れモデル校作りに役立った。

(4) 調査4カ国では、共通してNGOなど外部団体の教育支援、人権保障、アドボカシーに関わる役割が大きいことが明らかになった。

日本では中国残留邦人帰国者の支援、ニューカマー生徒の高校進学特別枠づくり、母語教育などのNGOが活発に活動している。

韓国では結婚移住者の生活支援、人権保障、結婚移住者の言語教育や子どもへの母語指導などにNGOが活発に活動している。

台湾では「たいまつ計画」にNGOが関与している。また、インドネシア華僑による世界的組織「インドネシア・ディアスポラ・ネットワーク」の台湾支部を立ち上げ、この組織が中心となり、支援ネットワークが活発に活動している。

タイではニューカマー児童のモデル校作り、移行学級作りにNGOが関与している。また、NGOと民間企業との連携によるニューカマー児童のための学習センターの運営が進んでいる。特にミャンマー児童の不就学や児童労働問題が頻発しているS県で詳細な調査を行い、水産加工業界が水産加工業での児童労働問題を解消するために、NGOと連携し、資金援助を行い、児童労働者のための学習セ

ンターを運営していることを明らかにした。

(4)研究代表(野津)は、本科研での研究成果を単著『タイにおける外国人児童の教育と人権- グローバル教育支援ネットワークの課題』として公表した(2014年)。本書の内容は、「子どもの人権保障の普遍化とタイ国内の対応」「外国人児童の学校不就学とその要因」「ミャンマー生徒が学ぶ学習センター」「ミャンマー児童支援のためのグローバル・ネットワークの形成」「児童労働問題への取り組み」「人身取引防止と被害者支援」「子どもの商業的性的搾取防止の取り組み」「タイのグローバル教育支援ネットワークの現状と課題」である。

(5)韓国釜山大学と兵庫県立大学で共同調査を実施(大学生が抱く日韓相互のイメージと受容性に関するアンケート調査)し、上述(1)の国際会議で分析結果を発表した。調査によれば、日本の学生が韓国の学生より多文化受容性が高い(特に外国人の友人がいる、多文化に関する授業を受講している、外国留学を計画しているなど)。(雑誌論文を参照)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11件)

乾 美紀・橋本若奈「教育支援がもたらす村人の教育意識の変化～ラオス支援学生団体と企業の比較研究～」『環境人間学紀要』査読あり、第94号、2017年、pp.103-118。

Kim Tae-Wan, Lee, Hey-Jin, Lee, Yeon-Ok, Cho, Yoon Yong, Notsu Takashi, A Comparative Study on the Multicultural Acceptance of College Students between Korea and Japan、JOURNAL OF DIASPORA STUDIES, Korea 10(2), 2016.12, pp.257-290, 査読有り(韓国語)

陳 來幸「20世紀初頭における客家系華商の台頭：神戸と香港に進出した梅県南口鎮の潘氏一族」村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』京都大学人文科学研究所、2016年、査読有り pp.53-82

野津 隆志「現場生成型の異文化間教育学研究の可能性 現場に根ざし変革を追求する研究とは」異文化間教育学会『異文化間教育』43号 査読なし pp80-89 2016年

藤田 美佳「参加型研究における研究者の役割 - Community Based Participatory Research(CBPR)をてがかりにして」査読有り 日本社会教育学会編『日本の社会教育第 60

集：社会教育における方法論』第60集 2016年 112-123頁

藤田 美佳「奈良教育大学における人権教育の取り組み-「夜間中学」,性的少数者(セクシャル・マイノリティ)に関する学習を中心に」奈良教育大学次世代教員養成センター『次世代教員養成センター紀要』2号、pp.317~321, 2016年。

横田 祥子「インドネシア華人女性の国際結婚を通じた世帯保持：西カリマンタン州シンカワン市の事例から」査読有り『華僑華人研究』13号 2016年 27-44頁

野津 隆志「NPOへの参加による現場生成型研究 フィールドワークからまなざす現場との交流」異文化間教育学会『異文化間教育』41号 2015年 pp63-75 査読なし

陳 來幸「東亜冷戦構造的深化與日本華僑社会 以華僑学校的争奪為主」査読有り 江柏煒、王秋桂主編『歴史島嶼の未来 2015金門歴史、文化與生態国際學術研討論會論文集』金門国家公園管理处 2015年 pp.389-404.

乾 美紀・久保 忠行、瀬戸徐映里奈「日本の難民受け入れ経験を問いなおす - 兵庫県姫路市の定住センターと難民キャンプの記憶から -」『難民研究ジャーナル』4号 pp. 57-72 査読有り 2014年12月

園田 節子「容閩-米中間を揺らぎ上昇する境界者(マージナル・マン)」村田雄二郎他編『講座 東アジアの知識人 1巻 19世紀初め～日清戦争』有志舎 査読有り pp.31-47. 2014年

[学会発表](計 14件)

Laixing CHEN (陳來幸) Quasi-official Network System of Chinese General Chambers of Commerce in Modern Asia, Research on the Public Policies on Migration, Multiculturalization and Welfare for the Regeneration of Communities in European, Asian and Japanese Societies, 2016年10月23日 神戸大学：兵庫県神戸市

陳 來幸「近代日本華僑史中客家商人與客家精英的定位：梅縣 - 香港 - 日本 - 巴達維亞」第四屆台灣客家研究國際シンポジウム「族群、地方與區域：全球客家知識体系的建構與實踐」、2016年9月10日、国立交通大学客家文化学院国際客家研究中心、台湾：新竹

市

乾 美紀「支援ネットワークがもたらす村人の教育意識の変化～ラオス教育支援団体の比較研究の試み～」日本比較教育学会第52回大会、2017年6月25日 大阪大学：大阪市

YOKOTA, S. Cross-border Marriage Migration Between Indonesian Hakka Women and Other Area's Chinese Men Global Householding of Singkawang, West Kalimantan, Indonesia, The Fourth Taiwan International Conference on Hakka Studies, 2016/9/11, National Chiao Tung University, Hsin-chu, Taiwan

陳 來幸 [東亞冷戦結構的深化與日本華僑社會 以華僑學校的爭奪為主] “歷史島嶼的未來 2015年金門歷史、文化與生態國際學術研討會” 2015年12月5日 金門國家公園會議ホール, 中華民國

野津 隆志、イヘジン 「日韓大学生の多文化共生に対する比較意識調査の報告」兵庫県立大学・釜山大学共同国際会議 ひょうご国際プラザ(兵庫県神戸市) 2015年8月26日

YOKOTA Sachiko, “Remigration to “Free China”: the Political Decision for Indonesian Chinese”, at Celebrating 20 Years of SEASREP and Southeast Asian Studies, 2015 Southeast Asian Studies Regional Exchange Program, 2015年11月4日, University of Gajah Mada, Indonesia

陳 來幸 「災害復興の国際比較からみる移民社会台湾の特質と民主化の成果」日本台湾学会第13回関西西部会・台湾史研究会合同研究大会 2015年12月19日 名古屋市立大学, 名古屋

藤田 美佳 「東日本大震災をきっかけとした防災と外国人の地域参加 - 浜松、気仙沼、秋田の取り組みを踏まえて」日本社会教育学会・韓国平生教育学会第7回日韓学術交流研究大会、2015年10月18日、済州大学：韓国

野津 隆志 乾 美紀, 「メコン川流域における労働移動と教育支援ネットワークの形成 タイ・ラオス・カンボジアを中心として」日本比較教育学会第50回大会 2014年7月13日 名古屋大学：名古屋市

横田 祥子 「商業的国際結婚の戦略：インドネシア西カリマンタン州シンカワン市

一帯の事例」日本華僑華人学会研究大会、2014年11月30日 東京：早稲田大学

Setuko Sonoda, Preserving Their Own History for the Old-Comer Chinese in Kobe, Japan, International Workshop Jinan University, Ireland Maynooth University and Singapore National University “MIGRATION STUDIES: EU AND ASIAN PERSPECTIVES”, 2013年12月10日, Jinan University, Guangzhou, Guangdong Province, China

Setuko Sonoda, “Transnational Administration of Chinese Communities in the Americas: Knowledge and Experience Diffusion through Consulate and Local Organization Networks of Overseas Communities”, The 8th International Society for the Studies of Chinese Overseas, 2013年8月18日, Palace of the Golden Horse, Kuala Lumpur, Malaysia.

園田節子 「南北アメリカ近代華僑の地域間コミュニケーションから考える「地域」(招待講演) ラテンアメリカ学会第34回定期大会シンポジウム「ラテンアメリカ研究の射程」2013年6月2日 埼玉県草加市、獨協大学

〔図書〕(計7件)

横田 祥子 「第5章 台湾に移住したインドネシア華人のライフヒストリー：中華民國への『帰国進学』と結婚移住」北村由美編著 『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』 京都大学附属図書館 2017年 pp1-316

横田 祥子 「東南アジア系台湾人の誕生：五大エスニックグループ時代の台湾人像」陳來幸・北波道子・岡野翔太 編 『アジア遊学 204 交錯する台湾認識：見え隠れする「国家」と「人びと」』 勉誠出版 2016年 pp1-288

陳 來幸・北波 道子・岡野 翔太(共編著) 『交錯する台湾認識 見え隠れする「国家」と「人びと」』(アジア遊学 204) 勉誠出版、2016年12月、pp1-266

野津 隆志 「タイにおける外国人児童の教育と人権- グローバル教育支援ネットワークの課題」ブックウェイ 2014年 pp.1-246

横田 祥子 「第26章新移民」「第27章人間関係とコミュニティ」「第53章東南アジアとの関係」赤松美和子、若松大祐編著『台湾を知るための60章』明石書店 2016年 pp1-384

野津 隆志 「こどもたちを支援する教育行政の取り組み」外国人の子どもの未来を拓く教育プロジェクト『未来ひょうご すべての子どもが輝くために 高校への外国人等の特別入学枠措置を求めて』ブックウェイ pp42-45 2015年

横田 祥子 「政治的な正しさの背後にかくれたローカルな論理によりそう-商業的国際結婚と家族」、白石壮一郎・椎野若菜編『100万人のフィールドワーカー 7 社会問題と出会う』古今書院 pp.1-242 2014年

〔その他〕

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/notsu22/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野津 隆志 (NOTSU, Takashi)
兵庫県立大学・政策科学研究所・教授
研究者番号：40218334

(2) 研究分担者

陳 来幸 (CHIN, Raiko)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号：00227357

乾 美紀 (INUI, Miki)
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授
研究者番号：10379224

園田 節子 (SONODA, Setsuko)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号：60367133

藤田 美佳 (FUJITA, Mika)
奈良教育大学・教育学部 特任准教授
研究者番号：90449364

横田 祥子 (YOKOTA, Sachiko)
滋賀県立大学・人間文化学部 助教
研究者番号：80709535